

1991 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川賞業務核都市・幕張新都心の総合的な街づく

沼田 武(千葉県代表 知事)

〈選考理由〉

本件における主たる受賞の理由は、第1は幕張新都心を中心として建設されつつある業務核都市が東京大都市圏の首都改造計画に大きく寄与しつつある点、第2には質の高い公共施設の整備と、良好な都市環境の創造であり、我が国における理想的な未来都市のモデルとなっている点であります。

特に、すぐれたマスタープランの作成と、各主要プロジェクトに適用した環境デザインマニュアルによる事業誘導方式の工夫は、今後におけるこの種の大規模プロジェクトの推進に大きく貢献し得るものとみられ、合わせてこの事業の推進における沼田知事の理解と強力なリーダーシップも高く評価されたものであります。

◆石川賞東京の都市計画に関する歴史的研究

越沢 明(神奈川県都市部副技幹)

〈選考理由〉

本受賞者は、昭和 57 年度に「満州の都市計画に関する歴史的研究」で論文奨励賞を受賞されておりますが、その後も精力的に巾広い研究活動をつづけてこられております。

今回の石川賞受賞の対象となったのは、平成3年に出版された2冊の著書、「東京都市計画物語」日本経済評論社、と「東京の都市計画」岩波書店でありました。

特に評価された点は、東京都市計画に関するわが国最初の通史であり、その内容が正確で表言も平易であったことにより、都市計画の啓蒙に大きく役立ったこと、並び

に自らの手で発掘した多数のオリジナル史料は都市計画史研究の進歩に少なからず貢献するものであったと云うことであります。

◆論文賞明治前期における建築法制に関する研究―長屋・家屋建築規則の成立過程―

田中 祥夫(横浜市建築保全公社常務理)

〈選考理由〉

明治前期は日本の建築法制史、又都市計画史において重要な時期であったと云われております。それは、神奈川・大阪等いくつかの府県で「長屋建築規則」と呼ばれる初歩的ではあるが、体系的な建築規制が制定されていたからであった。

本論文は、これらの内容を、東京をはじめとする各地の公文建館などの原史料を丹念に発掘し、分析して明らかにしたものであり、その成果の主たる点は、日本においても、イギリス、ドイツと同じように、初期の段階で公衆衛生分野の行政、研究者が都市問題の解決、建築法制の確立に大きな努力をしていたことを明らかにしているが、このことは、従来の日本近代都市計画史に関する知見を大きく展開したものであり、都市計画研究の発展に寄与するところが大きであったと評価されたものであります。

◆石川奨励賞個性ある町づくりに係わる業績

岡村 勝司(信州大学工学部社会開発工学科教授)

〈選考理由〉

受賞者は信州大学着任後、地域に根ざしたまちづくりを実践してきており今日に至っております。特に評価された点は、長野市における「個性ある町づくり」を旨とした基本構想、例えば「長野市都市景観形成基本計画」、「歴史的文化遺産の保全と活用をメインとした中心市街地整備指針」の策定、と以上の提案にもとづく個別プロジェクトの推進において指導的な役割を果たしてこられたこと、更に、学外教育の一環として創設された「蔵シック」による教育と啓蒙活動が地域住民と行政担当職員の意識向上に大きく役立ってきた等であります。

このような地道ではあるが、建実なまちづくり運動は、いずれ将来において大きな成果を生むことが期待できると判断され、石川奨励賞がふさわしいと評価されたものがあります。

◆論文奨励賞日本近代都市計画史における超過収用制度に関する研究

鈴木 栄基(北海道拓殖銀行総合開発第2部)

〈選考理由〉

本論文は東京大学都市工学科に提出された学位論文であり、その主内容は日本の都市計画における超過収用制度に関して、その制度創設期から最近に至るまでの運用面における変遷を調査し明らかにしているものと云えます。

特に評価された点は、日本都市計画史における超過収用制度の全容と問題点を明らかにすることにより、今後、超過収用制度を再認識し、これからの都市計画に生かす上で、貴重な知見を提供したことであります。又、この論文を通してみられる著者の研究への取り組み姿勢が着実であり、今後において大きな研究成果が期待できると判断され論文奨励賞がふさわしいと評価されたものであります。

◆論文奨励賞多様な輸送方式を取り入れた鉄道端末バス輸送計画手法に関する研究

中村 文彦(東京大学工学部都市工学科助手)

〈選考理由〉

本論文は東京大学都市工学科に提出された学位論文であり、その主内容はバス交通が需要の変化に柔軟に対応できる特性を、より積極的に輸送計画に取り入れるべきとの考え方に立ち、バス交通における供給サービスの多様化の可能性とその効果を、理論とケーススタディーにより研究し、最終的には鉄道端末バス輸送の計画手法を体系化しているものと云えます。特に評価された点は、第1は供給サイドからの研究には独創性があり、第2には既往の研究整理が充実しており、本研究の位置づけが明確にされていると共に、極めて有用な情報が提供されている点、第3には研究成果の応用性が高く、実務上の成果が大きく期待できる等でありました。主として以上の理由から、本論文は奨励賞の水準に十分値するものと判断されたものであります。

